

卓上電蓄のトッポスタイル

ナショナルチェスターラジオグラフ TX-181型

一家に一台のラジオを、といわれたのはもう昔のことです。民間放送の開局と、それにマッチした小型ラジオの出現以来、いわゆるパーソナルラジオがたちまち普及して、今や、「一九五四年はパーソナル時代」とまでいわれるにいたつていたので

では、電蓄の場合はどうでしょう。これとても同じことです。「大きいほど電蓄はよい」という考えかたはもはや古い考えです。小型で高性能の電蓄、これこそ、近代生活を営む現代音楽ファンの、もつとも望むところのものであるといつて過言ではありません。

成功した電蓄の小型化

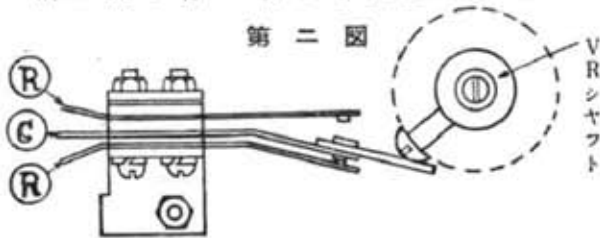
ラジオの小型化になくはならぬものとして、いわゆるMT管があります。このMT管そのものについては、いまさら言をまつまでもありませんが、ただ従来のMT管使用法が、トランスレス方式、オートトランス方式、またはセレン整流の利用などであつて、これをそのまま電蓄に採用することは、電蓄としての使命を果す上に少々物足りない点がありました。

「小型」という一つの制約がある以上、性能のすぐれたラジオ兼用電蓄をつくるには、一段の考慮が必要なのはいうまでもありませんが、一つの制約が、細部にわたつて多くの制約を生じ、これを乗り越えるための技術陣の苦勞は、並大抵のものではありませんでした。

本機TX-181-O型に採用された六・三V MT管は、我国最初のもですが、技術陣の努力がようやく結実したわけで、ここに、完全なトランス方式による小型電蓄が出現することとなつたわけです。



第二図



完璧な回路と部品

本機TX-181-Oの回路は、第一図に示す通りですが、この中から二、三の特徴を上げてみますと

- (1) パラエティに富んだ民放プロのキャッチに、遠距離受信がしばしばおこなわれますが、この遠距離受信には外部雑音がつきもので、とくに電源差音はDXマニヤの聞きずてにできないものです。高感度の五球スーパーとしての本機では、これを幾分でも軽減する意味で、とくに、一次電源の両極間に $0.05\mu\text{F}$ 、電源、アース間に $0.003\mu\text{F}$ のフィルタコンデンサーを挿入してあります。
- (2) レコード演奏時の近距離局混信をさけるため、レコードに切換えた場合には、6BD6の第一グリッドを短絡して、中間周波電流を阻止するようになつてあります。
- (3) 電蓄の絶対的使命である音響については、高性能のパーマネットダイナミックスピーカー六P-71を使用するとともに、トーンスイッチに加えてネガティブフィードバック回路を附加、ビクアップ回路には、C、Rによる音質補正を、また、ハムについても、とくに整流回路を二段濾波として軽減を図るなど、あらゆる面に完璧を期しました。
- (4) この他、機構的には、ハウリングを防止するフローティングタイプのもーターボート、及び、MT管セットに起りがちなソケットの接触不良の絶無を期した特製中型ソケットが使用されており、さらに、新方式によるラジオ、電蓄の切換表示灯と、低電圧球によるビクアップ針先照明ラン

